令　和　７　年　度
安　全　報　告　書

令和8年4月3日AB900系8号、9号車両安全祈願

令和８年５月１２日

阿武隈急行株式会社

目　　次

１　はじめに ＿＿＿

１　はじめに

日頃より阿武隈急行線をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

阿武隈急行線は、福島県福島市の福島駅から宮城県柴田町の槻木駅までを結ぶ５４．９キロメートルの営業キロを持つ第三セクター鉄道で、福島県と宮城県にまたがる阿武隈川沿岸地域における生活交通路線として、また、地域観光をつなぐ観光路線として、多くのお客さまに安全・安心な輸送サービスを提供してまいりました。

こうした中、全線開業から７月に39年目を迎えますが、全ての施設・設備が老朽化しており、令和７年度の修繕費用は営業費用のほぼ５割を占める過去最大の８億円を超える状況となりました。今後も修繕費用の増大が見込まれる状況となっています。

また、令和元年以降相次いだ災害やコロナ禍で４年度には129万人まで落ち込んだお客さまのご利用状況は、７年度は201万人まで回復しましたが、災害前の平成30年度には247万人だった８割程度に留まる状況となっています。

こうした厳しい経営状況のなか、沿線３市２町（福島市、伊達市、角田市、柴田町、丸森町）及び福島・宮城両県と共同で申請した鉄道事業再構築実施計画が、１月、東北運輸局長から認定されました。

当該計画に基づき、８年度以降、沿線３市２町、福島・宮城両県による施設・設備の費用負担を受けながら、安全・安心な運行の維持を実現するとともに、利用者ニーズに応じたダイヤの見直し、駅舎やホーム等の整備による駅利用環境改善、案内の多言語化等により、阿武隈急行線の利用者数増、利便性の向上を図ってまいります。

こうした観点から、８年３月のダイヤ改正においては、お客様のご利用状況を勘案した見直しを行いつつ、朝の通勤・通学時間帯における増便と乗り換え改善、福島～槻木間の直通列車の増便を行うなど利便性の向上に取り組みました。

今後も、公共交通機関として、「安全の確保は何事にも優先する」ことを徹底するとともに、当社の経営理念である「安全・安心・安定輸送の確保」を達成するため、社員が一丸となって運輸安全マネジメントによる継続的改善を図りながら、安全風土・安全文化の構築に努めてまいります。引き続き、地域の足として、皆さまに愛され、安全で安心してご利用いただける地域鉄道を目指して社員一同全力で取り組んでまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本報告書は、鉄道事業法第１９条の４の規定に基づき、当社の日頃からの安全に対する取組みや実態について自ら振り返るとともに、皆さまにご理解いただくために作成したものです。ぜひ、本報告書をご覧いただき、皆さまの声を輸送の安全に取り入れるために広くご意見をいただければ幸いです。

阿武隈急行株式会社
代表取締役社長
冨田　政則

２　安全に関する基本方針と安全目標

⑴　安全に関する基本方針

常に、ご利用者の安全を第一に輸送業務に取り組んでおります。

ア　安全確保を第一とした輸送の業務

イ　安全規則を遵守した基本に忠実な業務

ウ　問題意識を持った業務の改善

⑵　令和７年度の安全目標

令和７年度は、次の安全目標を掲げ取り組んでまいりました。

ア　鉄道運転事故の防止

鉄道運転事故の発生０を目指します。

イ　インシデントの防止

インシデントの発生０を目指します。

※「鉄道運転事故」とは、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故、鉄道物損事故をいいます。

※「インシデント」とは、鉄道事故等報告規則に定める鉄道運転事故が発生する恐れがあると認められる事態をいいます。

⑶　安全目標に対する実績

安全目標を達成するために全社員で取り組んできた結果、令和７年度も安全目標を達成することができました。

【令和３年度から５年間の安全目標に対する実績）　（単位：件）

項　　目	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
鉄道運転事故の防止	－	－	－	－	－
インシデントの防止	－	－	－	－	－

⑷　令和８年度の安全目標

更なる輸送の安全確保に努め、特に命を脅かす事故・事象の発生防止に取り組みます。

ア　鉄道運転事故の防止

鉄道運転事故発生ゼロを目指します。

イ　インシデントの防止

インシデントの発生ゼロを目指します。

⑸　令和８年度の安全目標を達成するための安全重点施策

令和８年度も、安全目標を達成するために、次の安全重点施策を掲げ取り組んでまいります。

ア　関係法令及び規程類の遵守

イ　安全文化の構築

ウ　鉄道施設・車両の確実な保守管理の徹底

３　輸送の安全に関する実態

⑴　令和７年度の重大運転事故の発生状況

令和７年度は、重大運転事故の発生はございませんでした。

⑵　令和７年度のインシデントの発生状況

令和７年度は、インシデントの発生及びインシデントに関する改善指示はございませんでした。

（単位：件）

項　　目	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
重大運転事故	－	－	－	－	－
インシデント	－	－	－	－	－

⑶　令和７年度の鉄道運転事故の発生状況

令和７年度は、鉄道運転事故（鉄道人身障害事故）の発生はありませんでした。

（単位：件、人）

項　　目	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
事故件数	－	－	－	－	－
負傷者数	－	－	－	－	－
死亡者数	－	－	－	－	－

⑷　令和７年度の輸送障害（運休又は30分以上の遅延）の発生件数

（単位：件）

項　　目	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
合　　計	23	18	20	20	13

項　　目	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度
ア　災害による輸送障害	**9**	**3**	**9**	**3**	**5**
(ｱ)　強風・倒木・飛来物	3	2	7	3	3
(ｲ)　大雪・大雨・台風・落雷	4	1	1	-	2
(ｳ)　地震	2	-	1	-	-
イ　設備・車両等の不具合による輸送障害	**10**	**8**	**7**	**9**	**4**
(ｱ)　信号設備等の不具合	4	3	4	3	3
(ｲ)　車両の不具合	4	2	1	3	-
(ｳ)　踏切故障・障害	1	-	-	-	-
(ｴ)　電力設備	1	3	2	3	1
ウ　その他	**4**	**7**	**4**	**8**	**4**
(ｱ)　他社線の運転規制及び　運休・抑止要請	3	4	3	5	1
(ｲ)　乗務員の急病等	-	-	-	-	-
(ｳ)　公衆立入り	-	-	-	-	-
(ｴ)　人身事故	-	-	-	1	-
(ｵ)　その他	1	3	1	2	3

⑸　行政指導等

令和７年度は、一昨年度の国土交通省東北運輸局による保安監査において、指摘を受けた改善指示事項に対する改善措置を実施し、令和８年３月２３日に完了報告を提出しました。その他、新たな行政指導等に関わる事故事象の発生はありませんでした。

今後も、過去の事象の再発防止対策を継続と他山の石を活用し、安全意識の向上を図って参ります。

4　輸送の安全確保のための取組み

⑴ 輸送に関する安全総点検の実施

経営トップ及び安全統括管理者等は、年末年始、GW期間、夏季輸送等繁忙期及び全国安全週間等、必要に応じて現場巡視を行い、輸送の安全確保の実施状況を確認し、現場の課題等を把握して改善することにより輸送の安全に取り組みました。

＜経営トップ等による現場巡視（年末年始）＞（写真：巡視の一部）

現業ミーティング

指令室

検修庫

保原変電所

福島駅

⑵ 社員の資格取得と技術力向上

ア　資格取得

（ｱ）高所作業車運転技能講習　　２名修了（施設課）

イ　技術力向上

輸送の安全確保のためには、ＯＪＴによる現場教育が重要です。

指導担当者による定例訓練（机上及び現車）を含め、ベテラン社員からの技術継承、列車添乗、習熟度の確認等を行い技術力の向上を図りました。また、外部団体主催の技術研修会等にも積極的に参加し、技術力の習得に努めてまいりました。

今後も、安全を担う人材の育成と後継者づくりを積極的に進めてまいります。

〈定例訓練等〉

車内ドアコック

キーボルト鎖錠

連結器カバー

（新）構内トークバック

〈外部団体主催の技術研修会等〉

（ｱ）高圧・特別高圧電気取扱業務特別教育　　１名修了（車両課）

（ｲ）運転適性検査員講習会　　１名修了（総務課）

（ｳ）指導担当者運転士研修　　１名修了（運輸課）

（ｴ）運転関係指導者講習会　　1名修了（運輸課）

⑶ 事故情報等の共有化と改善

災害や設備・車両の不具合等による輸送障害、インシデントのトラブル等は、毎週実施している経営会議（課長相当職以上のトップ会議）において担当社員から報告を受け、経営トップをはじめ出席メンバーで情報共有し、各部門で情報展開しています。特に、気になる事象等については、安全推進委員会などで社員同士が原因や対策について議論を交わし、事故の未然防止及び安全・安心・安定輸送の確保に向け取り組みました。

また、上意下達だけではなく、意見上申にも考慮したマネジメントシステムの構築を図るため、社員からの情報や意見が直接経営トップに到達するよう目安箱を設置しています。

なお、重大事故の背景には多くのヒヤリハット（事故の芽）が潜んでいると言われていることから、社員が経験したヒヤリハット情報の吸い上げに力を入れるとともに、これらの情報を活用し事故防止に取り組んでいます。

ヒヤリハット情報箱及び目安箱

⑷ 異常時対応訓練の実施

今年度の異常時合同訓練は、令和７年１０月２４日に刃物を持った不審者を想定した対応訓練を、消防、警察の皆さまの協力を得て、車内及び梁川駅ホームで実施しました。

また、令和７年９月１８日に開催した東北鉄道協会主催の鉄道事故対応訓練における「地震発生時の初動対応訓練」及び「車両脱線復旧訓練」に参加しました。

運転部門（運転指令）では、信号故障発生時に備え、ＣＴＣ制御装置（列車集中制御装置）の故障を想定し、ＣＴＣ制御から駅の信号装置を解放して、現地（富野駅）補助制御盤による信号の取扱い訓練及び沿線電話機の取扱い訓練を実施しました。

異常時合同訓練（刃物を持った不審者対応）

鉄道事故対応訓練（地震発生時の初動・車両脱線復旧）

現地補助制御盤及び沿線電話取扱い訓練

⑸ ホーム上での触車事故防止対策及び緊急列車停止用具

福島駅のホームは、福島交通飯坂線との共同使用のため朝夕のラッシュ時など福島交通飯坂線や阿武隈急行線をご利用になるお客さまで混み合います。列車進入の際等でのヒヤリハット情報が報告されたことから、列車接近自動放送機を設置し、ホーム上のお客さまに視覚及び聴覚により列車の接近をお知らせして注意を喚起するなどの触車事故防止対策をして実施しています。

また、ホームから線路に転落したときなど緊急に列車を停止させなければならない時に使用し、駅に進入する列車の運転士に異常を知らせて緊急停止させる際の合図旗を主に乗降客の多い駅のホームに設置しています。

列車接近自動放送機

緊急停止用合図旗

⑹ 踏切障害事故防止対策の実施

踏切障害事故を未然に防止するため、適切に踏切警報装置等の保守管理を行うとともに、踏切警報灯の視認性向上のため、一部踏切では全方位型踏切警報灯を更新し、踏切障害事故防止を図っています。

また、「全国交通安全運動」期間等において、踏切事故防止の意識の高揚を図るため、JR主催の「踏切事故防止キャンペーン」に参加するとともに、車内及び駅で踏切を通行する際の安全確認を呼びかける放送案内を実施しました。

なお、阿武隈急行線の第４種踏切（踏切警報器及び踏切遮断桿が無い踏切）は、令和３年１１月３０日に廃止したことから当社線内における第４種踏切は全て無くなりました。※

※　南岡踏切（岡～横倉駅間）、豊室踏切（横倉～角田駅間）

⑺ 線路条件（分岐器）に対するＡＴＳ（自動列車停止装置）

矢野目（信）～槻木駅間において、分岐器の速度制限区間に進入しようとする列車に、地上子から速度制限情報を車上装置に送信し、分岐器を通過し終わるまで列車の速度を監視しています。

列車が設定速度を超えると、直ちに非常ブレーキが自動的に動作して列車を停止させることにより、速度制限を超えて通過するのを防ぎ、分岐器通過時の安全性の向上を図っています。

ATS-Ps用地上子

⑻ 鉄道施設保全整備計画に基づく事業の実施

令和７年度は、次の事業を実施いたしました。

工 事 名	区　　間	概　要　等
橋梁塗装替工事	あぶくま ～ 丸森	N＝　１ 箇所
木マクラギ更新工事	矢野目 ～ 槻木	N＝　１２８ 本
ＰＣマクラギ更新工事	矢野目 ～ 富野	N＝　１５０ 本
道床交換工事	高子 ～ 槻木	L＝　９０ ｍ
トンネル補修工事	向瀬上 ～ 南角田	N＝　６ 箇所
分岐器部分交換工事	保原１１号	N＝　１ 基
	二井田１１号	N＝　１ 基
	東船岡１２号	N＝　１ 基
軌道整備工事	矢野目 ～　槻木	軌道整備N＝ １３３箇所 軌間整正N=　　５箇所
	岡 ～ 東船岡	軌道低下N＝ １箇所
構造物修繕工事	梁川車両基地	L＝　４６ ｍ
	梁川 ～ やながわ 希望の森公園前 広瀬川橋梁	N＝　１ 箇所
	あぶくま ～ 丸森 第３耕野橋梁	N＝　１ 箇所
	丸森 ～ 北丸森 第１角田上水橋梁	N＝　１ 箇所
軌道延伸工事	保原保守基地	L＝　２５ ｍ
レール遊間整備工事	福島学院前～槻木	L＝７３５９ ｍ
ホーム建築限界整備工事	福島　～ 角田	N＝　１０箇所
踏切保安装置更新工事	角田　～ 横倉	N＝　１ 箇所
信号ケーブル更新工事	富野　～ 丸森	L＝２８００ ｍ
通信ケーブル更新工事	保原　～　梁川	L＝３６００ ｍ
自動閉塞装置更新工事	丸森　～　角田	L＝２４００ ｍ
地震計更新工事	梁川	N＝　１ 箇所
ＣＴＣ更新工事	矢野目　～　槻木	各駅装置N＝　１ 箇所 中央装置N＝　１ 箇所
発動発電機更新工事	矢野目	N＝　１ 箇所
変電所設備更新工事	保原変電所	N＝　１ 箇所
継電器交換工事	高子、保原	N＝　２ 箇所
照明設備更新工事	福島学院前　他	N＝　１３ 箇所
信号保安設備更新工事	梁川　～　角田	信号保安設備、 トンネル碍子更新

⑼ 車両の維持補修と安全対策

令和７年度は、車両の維持及び安全対策のため次の事業を実施しました。

・車 輪 削 正　　（８編成・１６両）

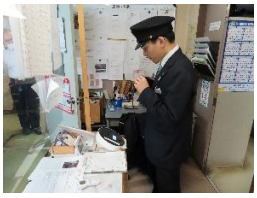
⑽ 健康状態の把握とアルコール検査の実施

安全・安心・安定輸送の確保には、社員の日々の健康状態を把握することが重要であることから、出退勤時又は点呼時毎に健康状態の確認を行っています。

また、乗務員及び車両を運転する社員に対しては、出勤時又は点呼時において当直係員立会いの下、アルコール検知器でアルコール検査を実施し、酒気を帯びていないことを確認するとともに、インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症等の対策の一環とした体温測定を継続して実施し、発熱等の症状のないことを確認してから乗務しています。

出勤時の体温測定

アルコール検査の実施



⑾ 新型車両の導入

当社で保有する８１００形編成の車両更新は、令和７年度に２編成の更新を行い、計画した全編成の車両更新を完了しました。

AB900系車両(1号車)

AB900系車両（2号車 阿武急 ラプラス&ラッキートレイン）

©Pokémon. ©Nintendo / Creatures Inc. / GAME FREAK inc.
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。

AB900系車両(3号車)

AB900系車両(4号車)

AB900系車両(5号車)

AB900系車両(6号車)

AB900系車両(7号車)

AB900系車両(８号車)

AB900系車両(９号車)

⑿ 梁川車両基地構内の照明設備改修

梁川車両基地構内の４６箇所の照明設備についてLED化等の改修を行い、障害事故防止と防犯対策の強化を図った。

LED灯具（光量　水銀灯100W相当）　４５箇所　　モールライト防雨型灯具　１箇所

⒀ 車両防犯カメラ搭載

AB900系1号車へ車内防犯カメラ６台を設置し、車内での発生事象把握及び犯罪等への抑止効果を図った。（令和7年度は1編成のみの搭載）

AB900系1号車　　車内防犯カメラ　　映像状況

⒁ テロ防止対策等の実施

ゴールデンウイークや夏季多客輸送、年末年始の期間に、特別警戒を実施し、「テロ対策強化中」のワッペンを着用した啓発活動、駅構内や車内での掲示、ホーム巡回や車内点検を実施し、テロ防止に努めています。

テロ対策強化中ワッペン

駅掲示

車内掲示(8100形)

車内テロップ等(AB900系)

また、福島警察署、伊達警察署、角田警察署等と連携し列車警乗での車内警戒や駅周辺のパトロールなど、防犯維持活動の強化を図っています。

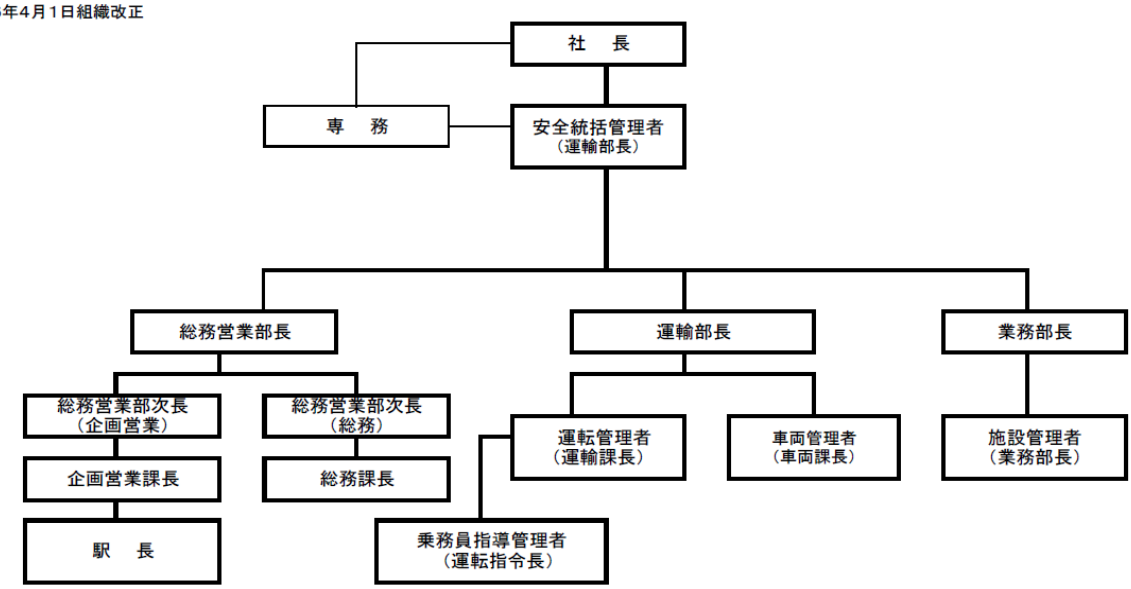
5　安全マネジメント

⑴　安全管理体制

平成18年10月に施行された改正鉄道事業法に基づき、「安全管理規程」を制定し、下図の体制により、輸送の安全維持向上に努めました。

安全管理規程

令和6年4月1日組織改正



※指定職が、空席のときは次席の者が担当する。

管理者の役割

役　　職	役　　割
社　長　・　専　務	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
総務営業部長	投資計画、予算計画、要員計画その他必要な計画の検討にあたり、社員・設備の状況その他の事項を総合的に勘案し、安全性及び実現性の検証を行う。 輸送の安全の確保に関する業務について、安全統括管理者の業務を助け、必要な助言をする。
業　務　部　長 （施設管理者）	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する。
運　輸　課　長 （運転管理者）	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。

役　　職	役　　割
車　両　課　長 （車両管理者）	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。
運　転　指　令　長 （乗務員指導管理者）	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。

⑵ 安全委員会

経営トップを中心とした「安全委員会」を設置し、安全に関する総合的な課題について協議し対応するなど、安全な輸送の確保に努めてまいりました。

⑶ 安全推進委員会

安全統括管理者を中心とした「安全推進委員会」を設置し、２ヶ月に１回のほか必要により開催することとし、安全・安心・安定輸送の確保に係る懸案事項及び事故（不具合）の発生原因や再発防止等の協議を行いました。

また、他社で起きた事故例（他山の石）やヒヤリハット情報などを活用し、運転事故防止に努めてまいりました。

⑷ 内部監査

内部監査員に指定された社員が各部門（運転部門、車両部門、施設部門、営業部門、総務部門）を監査するとともに、常勤監査役が経営トップや安全統括管理者に対して輸送の安全を確保するための基本方針や取組状況の監査を実施し、一層の安全確保とＰＤＣＡサイクルによる安全文化、安全風土の構築に努めてまいりました。

当社への連絡先

福島駅　(024)-522-1322　　保原駅　(024)-576-2773

梁川駅　(024)-577-7131　　丸森駅（0224)- 72-4069

角田駅（0224)- 62-4610　　本　社　(024)-577-7132

ホームページ　ＵＲＬ　https://www.abukyu.co.jp